演じる事さえ　馬鹿げてると言った

私の存在　塵の一つのようで

感じた視線に　期待してた頃

失うことなど　ありはしないと

一人佇む部屋で　時間をただ刻んで

虚ろな魔法の檻　抜け出し扉を開け外界へ

やがて幕は下りた　雪の舞う夜

振り返っても今は 誰も気づけないの

降り散る雪　手に取れば消えゆくわ

須臾の合間に

望んだ邂逅　ただ一度の過誤

願いを語れば　空しさは募るばかり

凍える両肩　そっと包むヴェール

儚い横顔　まるでヒトのよう

閉ざしたこのセカイに　ただ一つの手段で

哀訴の祈りのよう　手を組み跪いて褪せた景色

涙こぼれ　少女が映る

こんなにも近いのに 遠く感じるのは

揺らいだ所為　そうココロは漣ね

掻き乱されて

ずっと感じていた　終わりの予感

あなたはもう慣れたと　肩越しに手を振り

崩れてゆく　もう意味などありはしない

去りし思いを

やがて幕は下りた　雪の舞う夜

振り返っても今は 誰も気づけないの

降り散る雪　手に取れば消えゆくわ

須臾の合間に